

推進員の活動日誌

1994年「国際アルツハイマー病協会」は、「世界保健機構」と共同で、毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、認知症に関する啓発活動を実施しています。また、9月を「世界アルツハイマー月間」と定め、様々な取組が世界各地で行われています。

神崎市では、世界アルツハイマー月間に合わせて、旧古賀銀行神埼支店のオレンジライトアップや、市役所や各交流センター、神崎市立図書館の本館・分館で特別展示を行いました。

神崎市では、認知症の状態になっても、自分らしく生きがいをもって暮らせるまちづくりのために、これからも様々な活動を続けてまいります。

旧古賀銀行神埼支店 オレンジライトアップ



オレンジ色は認知症支援のイメージカラーです。また、オレンジ色は「手助けをします」という意味を持つといわれています。

交流センターや図書館での展示



神崎市
中央交流
センター

神崎市立
図書館
千代田分館

図書紹介特集

本で学ぼう 認知症とともに生きる人

皆さんは、認知症の状態になったら、「何もできなくなる」「何もわからなくなる」と思っていますか。

実際はそうではありません。認知症の状態になっても、知恵や工夫によってできることもたくさんあります。たとえ「過去」を覚えることが難しくなっても、「今」感じている思いや感情は、本人の中で生き続けています。

昨今では認知症であることを公表し、自分の言葉で周囲に思いを伝え、希望をもって自分らしく生活をしている人が増えています。そうした認知症とともに生きている人の思いを、本を通して感じてみませんか。

今回紹介している本は、神崎市立図書館の本館・分館で貸し出ししていますので、ぜひ読んでみてください。

認知症になってもだいじょうぶ! そんな社会を創っていこうよ

神埼本館

著者 ● 藤田 和子

発行 ● メディア・ケアプラス 発売 ● 徳間書店

著者は15年前アルツハイマー病と診断されましたが、今も周りの人とともに日常生活を送っています。

その生活の中で感じたさまざまな思いや日ごろ考えたことを、フェイスブックで発信してきました。看護師で医療の専門職でもある著者が、発信したメッセージを自ら掘り下げてこの本をつくりました。



認知症地域支援推進員(以下推進員)の一言

藤田さんは、日本認知症本人ワーキンググループの代表を務められながら「認知症になっても安心して“希望”と“人としての尊厳”を持って生きられる社会にしていきたい」と啓発を続けられています。この本を通じて、その思いを心で聴いてみませんか。

あなたの手助けを必要としています

おかえりQRシール

このQRシールは、ひとり歩きの後、家に帰れなくなる恐れがある方の衣類や持ち物につけていただいています。

困っている様子の方を見かけたら、温かいお声かけのうえ、警察や市役所へ連絡をお願いします。



※こちらは見本です。読み取るとシールの詳細についての動画を再生できます。

問い合わせ
相談先

おたっしや本舗 神埼北(神崎市育振交流センター内) Tel. 59-2005
おたっしや本舗 神埼(神崎市役所高齢障がい課内) Tel. 37-0111
おたっしや本舗 神埼南(神崎市千代田交流センター内) Tel. 34-6080